

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣良次

2025. 11
No.387

『自主性ではなく主体性を育てる』

(月刊『致知』9月号)

教育アドバイザー 工藤勇一氏

生徒たちに自分の力で生きていく力を
養ってほしい。

主体性と自主性。この二つの言葉を同じ
意味だと勘違いしている人も多いですが、
実は違います。自主性とは、自ら進んで行
動すること。日本の学校が育てようとして
きた力であり、先生や保護者、組織が期待
することを自ら進んでやる子どもを育て
てきました。

一方の主体性は自分の頭で考え、判断し、
行動することです。これこそ、いまの時代
に求められる力に他なりません。子どもた
ち自身が小さな自己決定を繰り返してい

くことで、「生きる力」が養われていくと
私は信じています。

これは、世間においても、イナテックにおい
ても、非常に重要なことだと考えておりま
す。

今、生成AIが急速に発達し、SNS
を通じて誰もが無責任に情報を発信できる
時代になりました。しかし、生成AIが導
き出す回答は、あくまでも過去のデータから
算出された「最適らしきもの」であり「本当
の答え」ではないかもしれません。倫理観や
道徳観は国によってまちまちですし、個人に
よっても異なります。その中で、生成AIが
どのような情報を集め、回答を提示している
かは分かりません。

だからこそ、工藤勇一氏の言われる『自分
の力で生きていく力』を養ってほしいという言
葉に、私は深く共感いたします。

イナテックでは、課長職以上の皆さまによ
る「企業理念を共に学ぶ会」を立ち上げ、
議論を重ねてきました。これは、企業理念を

オーナーと社員が共に深く考え、実践へと繋
げるための取り組みです。企業理念が文化
として根付いた会社を、共に創り上げる(共
創)ことを目指しています。

その礎となるのは、次の二つの考え方です。

「自分の頭で深く考える」

- ・本質を捉える
- ・仮説と検証を繰り返す
- ・自分の言動に責任を持つ

「人として正しい考え方」

- 一、嘘をついてはいけない
- 二、人に迷惑をかけてはいけない
- 三、正直であれ
- 四、欲張つてはいけない
- 五、自分のことばかり考えてはならない

(稲盛和夫『成功と失敗の法則』より)

工藤氏の言われる、『自分の頭で考え、判
断し、行動すること』を実行するにも、この
「考える基礎」が大切であり、それに基づいて
「判断する力」が不可欠です。

現代は、「何でもあり」という風潮が広がる世の中です。だからこそ、人類として、地球に生きる一員として、何が正しいかを考え、行動できるイナテック社員を増やしていく必要があります。こうした取り組みが社員一人ひとりの成長の「一助」となれば、イナテックの企業理念である『社会に貢献』の実現により近づくと思っております。

工藤先生、ありがとうございます。そして、致知出版社様へ感謝。

イナテック版 私の履歴書 No. 7

仕送り暮らしの大学生活

前回の『伝言ノート「駅発」』の内容から、だいたいご想像いただけるかと思いますが、私は仕送りの資金のみで毎日を過ごすという厳しい生活を送っていました。そんな中でも、あまりダサい服装は避けたいと、当時流行していた「アイビールック」にとりあえずこだわっていたのです。

（アイビールック：1950年代から1960年代にかけて、アメリカの名門大学

アイビリーグの学生たちによって生まれ、清潔感と知的さを兼ね備えた上品なファッションとして確立されたスタイル。）

仕送りのお金しかない中で服や靴を買い揃え、その恰好で「大阪ミナミ」の安い居酒屋やスナックに遊びに行くわけですから、まさに貧乏の極みでした。当時の仲間も皆、下宿生活をしており、少ない仕送りで生活をやりくりしていたのです。

そんな私たちですが、羽石先生のお陰で、何とか近畿大学理工学部経営工学科を卒業することができました。

就職活動の結果

就職活動が本格化し、仲間は大和ハウス工業、滝澤鉄工所（現 TAKISAWA）、工具商社、自営と順調に進路を決めて

菜根譚後集

一一八

驚奇喜異者、無遠大之識、苦節獨行者、非恒久之操。

珍しいものに感服したり、変わったことを喜ぶような人は、（けっきょく浅薄であって）、遠大な見識を持っていない。また、度を過ぎて節操を立て、世にそむいて独行するような人は、（けっきょく常道ではないので）、長続きする操守ではない。

いく中、私はオービックや豊和工業の入社試験を受ける機会をいただきました。

もし私がオービックに入社していたならば、今のイナテックはIT産業や生成AI企業として発展していたかもしれません。しかし、現実やはり現実です。

また、豊和工業さんは、昔から日本の機関産業の一つであるマザーマシン製作や軍需・防衛産業が中心の鉄工会社でした（現在も同様ですが）。

面接では、「稲垣さんは将来、お父さんの会社を継ぐのですか。当社は腰掛けですか」という質問を受けました。これに対し、「はい、そうです」と返事したら、一巻の終わり！今の時代なら「一生勤めます」と言うでしょうが、なにせ稲垣良次君は正直者ですので、その正直さゆえに、不採用となってしまうした。

こうして、私は稲垣鉄工へ入社することになったのです。

